

## 中国レポート

11013047 熊谷 航介

私は約四か月間中国の北京にある北京師範大学に留学してきました。今になって留学のことを振り返ってみると本当にあっという間だったように感じますが、留学している間は本当に毎日がとても充実していて多くのことを学べたと思います。

留学初日、まず、北京空港内の移動に列車を使うほどの巨大さに、着いてそうそう圧倒されてしまいました。空港を出ると、その日は生憎 PM2.5 が多い日で、霧がかかったように視界がかすんでいました。それを見ると、少なくとも大気汚染については決して誇張はなかったということがわかってこれからの中国の生活について少し不安を感じました。大学までの移動にはバスを使いましたが、そこでは中国の道路の混雑具合や運転のきわどさ、何より当たり前のように鳴り響くクラクションに驚き、とても恐怖を感じました。大学に着くともう時間が遅く学内のスーパーでカップラーメンなどを買い出ししましたが、そこでの店員の態度はレジ打ちの時に商品を投げるなどとても不愛想で、話としては知っていたものの実際に見るとやはり驚きました。学生寮の部屋は二人部屋の寮にしてはなかなかいい部屋でしたが、トイレとシャワーがカーテンですら仕切られずに隣り合っていたのはさすがにかなり嫌だったのを覚えています。

このように初日からカルチャーショックの連続で、その日北京では珍しい大雨に振られてびしょ濡れになったこともあり、北京に対する第一印象は良くありませんでした。しかし、実際に中国で暮らしたり中国人と接したりするうちに、確かに文化や価値観の違いを強く感じましたが、それは必ずしも悪いことではないと思いました。日本では中国の文化について悪い面が強調されていますが、物事には必ず良い側面と悪い側面があると思いました。

例えば、店員が無愛想だと初日は思ったのですが、日が経つにつれてだんだんと自然な感じのように感じ、むしろ日本はあまりにも“お客様第一主義”が行き過ぎているのではないかと思うようになりました。実際、すべきことはしっかりしているし、何も困ることはありません。日本ではあまりに対応が丁寧すぎて逆にこちらのほうが緊張してしまうということもありました。もちろん 100%中国の真似をすればいいわけではないのですが、もう少し自然に接客してもいいと思います。

また、スーパーやチェーン店でないところでは店員との交渉で値段を決めることになるところもあり、初めはまず間違いなくぼったくられます。向こうも取れるところから取らないとやっていけないので、相場を知らない外国人、特になかなか自分の主張ができず、相手の言い値にそのまま納得してしまう人が多い日本人は格好の獲物かもしれません。しかし、こうした交渉の中で中国語の会話が上達したり生の中国人との会話の雰囲気があったりするし、何よりお互いの利害や体裁などがせめぎ合い、きっちりと勝敗は付きつつも表面上は和やかに取引が終了するという感じがとてもスリリングで慣れると面白いと思いました。

このような体験から考えると、中国ではサービスの消費者と提供者の立場が対等なのだと思います。当然、立場が対等であれば能力も対等でなければ実質的には対等にならないので、中国では賢い消費者でなければ生き残れないということになります。日本では消費者は様々な面で保護されているような感じなので、慣れないうちは大分つらいかもしれませんが、おそらくこうした環境の中で中国人の主張の強さが磨かれていると思うし、そういった面では多少見習うべきかもしれません。

他にも、最初に思っていた生活の不満は慣れると大体大丈夫になりました。トイレとシャワーが隣り合ってもどうとも思わなくなったし、自動車優先の自動車優先のきわどい交通状況にも歩行者としてうまく適応できるようになりました。

一方、どうしても良い面があるとは思えないこともありました。PM2.5 はひどい時は本当にひどく、間違いなく急速な発展によって生じた大きな歪みだと思います。

しかし、少なくとも私が接した中国人の中で反日感情をあらわにしてくる人は全くいませんでしたし、メディアを通してではわからないことがわかると思います。